



2023年8月10日

各位

会社名 株式会社トライアイズ
代表者 代表取締役社長 池田 有希子
(コード 4840 東証グロース)
問合せ先 管理部IRG課長 藤浦 政宏
電 話 03(3221)0211

2023年12月期第2四半期連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

2023年3月1日「第2四半期業績予想及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表いたしました2023年12月期第2四半期累計期間(2023年1月1日～2023年6月30日)の連結業績予想と実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想との差異

2023年12月期第2四半期連結業績予想と実績値との差異 (2023年1月1日～2023年6月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	363	6	165	112	14円48銭
実績(B)	372	24	221	156	20円05銭
増減額(B-A)	8	17	55	43	-
増減率(%)	2.3	256.3	33.8	38.6	-
(参考)前期第2四半期実績 (2022年12月期)	404	△32	△73	△117	△15円13銭

2. 差異の理由

(売上高から営業利益について)

売上高については概ね予想どおり推移しました。建設コンサルタント事業において採算性の高い案件を効率的に実行したことにより建設コンサルタント事業の原価率が当初の予測よりも大幅に減少しました。(予測70.6%に対して実績48.0%)この影響により建設コンサルタント売上総利益が当初の予測を大幅に上回る結果となった一方、ファッションブランド事業は軽井沢工場の稼働率が当初の予測を下回ったことを受け、原価率が当初の予測を超える結果となりました。これらの影響により、売上総利益は当初の予測を上回る結果となりました。販売費及び一般管理費については固定費の削減に努め前年同期よりも減少したものの、当初の予測を若干上回る結果となりました。こ

これらの影響により、営業利益は当初の予測を上回る結果となりました。

(営業外収益から親会社株主に帰属する四半期純利益について)

営業外収益については、①為替差益が最近の為替相場の変動により当初の予測を上回る結果となったこと及び②海外連結子会社における外貨建て預金利息が当初の予測を上回ったことを受け、201百万円と、当初の予測 163 百万円を大幅に上回る結果となりました。営業外費用は当初の予測どおり推移しました。このため、経常利益は当初の予測を大幅に上回る 221 百万円となりました。

そして、固定資産売却益及び新株予約権戻入益を特別利益に計上したことにより、税金等調整前四半期純利益は 235 百万円と当初の予測 164 百万円を上回る結果となりました。法人税等は税金等調整前四半期純利益の増加に対応して増加したものの、最終的な親会社株主に帰属する四半期純利益は 156 百万円と当初の予測 112 百万円を大幅に超える結果となりました。

以上